

SWAB

Patent number: JP6225907
Publication date: 1994-08-16
Inventor: MAEJIMA KAZUTO
Applicant: MAEJIMA KAZUTO
Classification:
- international: **A61F13/36; A61F13/36; (IPC1-7): A61F13/36**
- european:
Application number: JP19930033945 19930201
Priority number(s): JP19930033945 19930201

Report a data error here

Abstract of JP6225907

PURPOSE: To confirm and determine accurately an appropriate holding position and to make it possible to use easily and safely it at a const. depth by providing a cotton wrapping part at least on one end on a bar shaft and graduating at least one side on the bar shaft. **CONSTITUTION:** A swab is provided with a bar shaft 1 wherein a cotton wrapping part 2 is provided at least on one end on the bar shaft and a graduation is added at least on one side on the bar shaft. The graduation 3 is displayed on the bar shaft without the cotton wrapping part 2 and can easily be recognized. It is appropriate for it to mark a letter on the bar shaft, to mark a numeral on the bar shaft, to mark a symbol on the bar shaft, to mark an unevenness on the bar shaft and to apply a color being different from that of the bar shaft 1 on the bar shaft. Either one kind or two kinds or more among these methods can exhibit a sufficient effect and it can be used easily and safely at a const. depth without pushing the cotton wrapping part into an auditory meatus and a nose with an unnecessary depth.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-225907

(43) 公開日 平成6年(1994) 8月16日

(51) Int.Cl.⁵

A 6 1 F 13/36

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

9052-4C

A 6 1 M 35/ 00

X

審査請求 未請求 請求項の数 6 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-33945

(22) 出願日 平成5年(1993) 2月1日

(71) 出願人 592243070

前島 万人

東京都板橋区常盤台1丁目40番9号 富士ビル401号

(72) 発明者 前島 万人

東京都板橋区常盤台1丁目40番9号 富士ビル401号

(54) 【発明の名称】 綿 棒

(57) 【要約】

【目的】 棒軸上の少なくとも一方に目盛りを付してなる綿棒を使用したことによって、誤って耳道内及び鼻内を傷付けることなく、容易にかつ安全にしかも効果的に清潔さを保ち、顕著な使用感と満足感を得る。

【構成】 棒軸1に、棒軸上の少なくとも一端に綿包部2とその一方に目盛り3を取り付ける。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 棒軸上の少なくとも一端に綿包部を持ち、棒軸上の少なくとも一方に目盛りを付してなることを特徴とする綿棒。

【請求項2】 棒軸上の少なくとも一方に文字を付してなることを特徴とする前記特許請求の範囲第1項記載の綿棒。

【請求項3】 棒軸上の少なくとも一方に数字を付してなることを特徴とする前記特許請求の範囲第1項記載の綿棒。

【請求項4】 棒軸上の少なくとも一方に記号を付してなることを特徴とする前記特許請求の範囲第1項記載の綿棒。

【請求項5】 棒軸上の少なくとも一方に凹凸を付してなることを特徴とする前記特許請求の範囲第1項記載の綿棒。

【請求項6】 棒軸上の少なくとも一方に色を付してなることを特徴とする前記特許請求の範囲第1項記載の綿棒。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、綿棒を使用する際、適切な持つ位置を正確に確認して定め、一定の深さで容易にかつ安全に使用することができる、目盛りを付してなる綿棒に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、綿棒は主として、棒軸及び棒軸上の少なくとも一端に綿包部を持つもので構成されている。また、各種の清掃を目的とする綿棒は市場に広範囲に出回っており、これらは例えば、耳や鼻の衛生用及び化粧用などの様々な用途で広く使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 公知の綿棒は、綿包部を必要以上に深く押し入れてしまう危険性があり、かなり外傷の原因となるから問題である。この場合、鼓室の障害が考えられるだけでなく、耳道内の耳あかを奥深く押しやる事になったり、鼓膜をも傷つけることが多々あるという問題点があった。

【0004】 また、人それぞれ耳道内及び鼻内の深さ及び大きさは一定しておらず、また、綿棒の持ち方も異なったり、安定しない場合があるため、使用する際、綿包部を必要以上に深く押し入れないようにするためには、適切な持つ位置を正確に確認して定め、一定の深さで容易にかつ安全に使用することを容易にできることが必要とされる。

【0005】 発明が解決しようとする課題は、だれでも適切な持つ位置を正確に確認して定め、一定の深さで容易にかつ安全に使用することができる綿棒を提供する点にある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明の綿棒においては、棒軸上の少なくとも一方に目盛りなどを付すことである。

【0007】 本発明に用いる目盛りなどとしては、だれでも容易に視覚的及び触覚的又はどちらか一方に於いて、適切な持つ位置を正確に確認して定められる方法であることが好ましい。

【0008】 例えば、棒軸上に目盛りを付すことの他に、棒軸上に文字を付すこと、棒軸上に数字を付すこと、棒軸上に記号を付すこと、棒軸上に凹凸を付すこと、及び棒軸上に棒軸と異なる色を塗り分けて付すことがあげられる。これらの方法によって、だれでも適切な持つ位置を正確に確認して定め、一定の深さで容易にかつ安全に綿棒を使用することができるので、耳道内及び鼻内に深く押し入れるのを防ぐことができ、より一層好ましい。

【0009】

【作用】 綿棒の棒軸上に少なくとも一方に目盛りなどを付すことで、人それぞれ耳道内及び鼻内の深さ及び大きさが一定していなかったり、また、綿棒の持ち方も異なる場合があるが、綿包部を必要以上に耳道内及び鼻内へ深く押し入れないように、適切な持つ位置を正確に確認して定め、一定の深さで容易にかつ安全に綿棒を使用することができる。

【0010】

【実施例】 本発明の少なくとも一方に目盛りなどを付してなる綿棒の1実施例を図1に基づいて説明する。綿棒は、棒軸上の少なくとも一端に綿包部2を持ち、棒軸上の少なくとも一方に目盛り3を付してなる棒軸1を備えている。

【0011】 目盛り3は、綿包部2を有しない棒軸上に於いて標示され、通常容易に確認することができる。

【0012】 その為には、棒軸上に目盛り3を付すことの他に、棒軸上に文字を付すこと、棒軸上に数字を付すこと、棒軸上に記号を付すこと、棒軸上に凹凸を付すこと、及び棒軸上に棒軸1と異なる色を塗り分けて付すことが適切である。上記の方法は、1種類又は2種類以上であっても、十分な効果を発揮することができる。

【0013】 また実験者等によると、人それぞれ耳道内及び鼻内の深さ及び大きさは一定していなかったり、また、綿棒の持ち方も異なったりして、安定しない場合があるため、従来の綿棒の場合、常に良好かつ一定した安全な使用を継続することは、非常に慣れと勘を要していた。また、その働きが充分いかされていなかったり、安全性に問題があることが確認された。

【0014】 しかし、棒軸上に少なくとも一方に目盛りを付してなる綿棒を使用した場合には、常に適切な持つ位置を正確に確認して定めることができるので、綿包部を必要以上に耳道内及び鼻内へ深く押し入れることができ、一定の深さで容易にかつ安全に使用することができ

た。

【0015】

【発明の効果】この発明にかかわる綿棒を使用するときは、適切な持つ位置を正確に確認して定めることができたので、綿包部が必要以上に耳道内及び鼻内へ深く押し入らないように効果的に阻止しながら、一定の深さで容易にかつ安全に使用することができる。

【0016】これによって、綿包部を必要以上に深く押し入れた場合、外傷の原因となり、鼓室の障害が考えられるだけでなく、耳道内の耳あかを奥深く押しやる事

や、鼓膜をも傷つけることより回避される。

【0017】このことは、今まで綿棒の使用を控えてい

た人をも含め、より多くの人に心理的な安心感を与えると共に、本発明の綿棒の使用による衛生面での健康管理をより一層うながすという点にも優れた効果を発揮することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図面は、本発明の1実施例を示す側面図である。

【符号の説明】

- 1 棒軸
- 2 綿包部
- 3 目盛り

【図1】

